

(12) WG 20：都市問題と地下利用による解決

部会長：G. Gaspari（カナダ）

副部長：S. Vardakos（USA）

担当理事：D. McGirr（イギリス）

本 WG は、これまで“都市問題と地下利用による解決”というタイトルの下で活動が行われた。この間、Resilience というキーワードで、“各種災害と地下利用による対策方法について取りまとめられ 2020 年に公開された。2026 年 3 月時点では、”単線並列トンネルと複線単一トンネル整理“および、”地下開発と近接影響評価法“に関するレポートの制作、取り纏めが実施された。これらは、今後 ITA のレビューを経て公開予定で、通常承認は 6～9 カ月程度との報告があった。

2025 年の末頃から、WG の名称変更に関する意見募集があり、“世界の挑戦と地下利用による解決”という名称変更が決まり、WG 会議では、各国の地下に関わる開発の事例紹介をした。アメリカは 2050 年を目標に月の地下 50m 程度に居住区画を建造するほか、データセンターの設置計画に関する紹介をし、現在南アフリカで岩盤の遠隔切削ロボットの試作と実験が行っていることの報告は非常に興味深かった。その他、地下 500m に延長 15km に及ぶ核廃棄貯蔵庫と高圧縮状況下に対応するため、一定の空隙を設けた収縮可能なセグメントライニングの実験の紹介があった。その他、各国のプロジェクト紹介として、ギリシャ及び日本が発表を行い、日本は中央新幹線、日本橋地下化、羽田アクセス線等について、公表資料ベースにて紹介を行った。

今後、当該の WG は 3～4 のサブワーキングに分かれて活動を予定し、各タイトルに応じた調査及び整理、報告書作成を行う。

（文責：小松原渉・パシフィックコンサルタンツ(株)、
中谷匡志・(株)安藤ハザマ）

WG 20 の活動状況はこちらから

[Working Group 20: Global Challenges, Underground Solutions](#)